

東京学館初戦惜敗

9回迫るも及ばず

甲子園 市和歌山に4―5



市和歌山―東京学館 惜敗し、試合後の整列後、スタンドへあいさつに向かう東京学館の選手たち＝9日、甲子園

市和歌山
東京学館

1	0	4	0	0	0	0	0	0	5
1	0	0	0	0	2	0	0	1	4

第105回全国高校野球選手権は9日、兵庫県西宮市の甲子園球場で1回戦を行い、本県代表で初出場の東京学館は市和歌山に4―5で惜敗し、県勢6年ぶりの白星はならなかった。

三回に4点差とされたが、中盤に反撃して詰め寄った。九回には1点差まで迫ったが、及ばなかった。

初回、連続四死球から適時打で、先制点を奪われた。同点の三回には長短5安打を集められ、4点を失った。しかし、四、五回は2番手の杉山陽生が追加点を許さなかった。六回から登板した3番手の涌井陽斗も無失点に抑えて、反撃につなげた。

打線は初回、遠藤蒼太の適時二塁打で同点に。4点を追う六回は、佐藤明日葵、渋谷優希の連打から、八幡康生の犠飛と遠藤の適時打で、2点差に迫った。

九回は、ともに途中出場の鈴木健太と近藤颯斗の連打で、一、二塁の好機をつくった。敵失で1点差としたが、そこまだった。